

<放射線遮蔽バックの記事>

**放射性物質遮蔽バック**

**家庭用を来月発売** サンメック

【水戸】サンメック（茨城県日立市、佐藤恒介社長、0294・42・3077）は、家庭用の放射性物質遮蔽バックを完成した。繊維状の鉛を合成布の間に挟み込んだ、ふた付きのバケツ状。厚さ2ミリのタイプで、土などに含まれた放射性物質からの放射線について60%程度の遮蔽効果が期待できるとしている。価格は5万円程度を想定。25リットル収納でき、バックのみの重さは15キログラム。

耐久試験、放射線試験などを引き続き行い、7月初旬の発売に向け準備を進める。財団法人原子力研究バックエンド推進センター、千代田メイトナンスと共同で開発、経済産業省の震災復興事業に採択されている。厚さなどを変えた3タイプの遮蔽バックをそろえる。仮置き場向けに200リットルの一般的なドラム缶を収納できる鉛板を使った遮蔽容器も開発中。仮置き場向け遮蔽容器も60%以上の遮蔽効果を期待できるとしている。

発売にあたっては「鉛を使った製品のため、リサイクルの仕組みも検討する。増産となれば雇用確保のため福島県内の協力工場に依頼する」（佐藤社長）考えた。

発見した放射性物質は、中間貯蔵施設ができるまでの間、自治体の仮置き場で保管したり、やむを得ない場合は除染現場の自宅や公園で一時的保管されている。当面の処理方法として、ブルーシートなどで養生し、土を覆いかぶせる方法や、コンクリートブロックなどで覆う方法が取られている。

<一般のご家庭における放射線遮蔽バック活躍の場面>



雨樋や側溝などのホットスポットで活躍できる。

- <収納対象物>
- ・汚染土壌
  - ・汚染灰（焼却灰）
  - ・落葉、除草など

- ※1. 対象物に水分が含んでいても大丈夫。
- ※2. ご家庭の内袋を予め敷いておけば中身を取り出す際、容易にできます。

お問い合わせ先

株式会社 サンメック 茨城県日立市田尻町3丁目28番地1号  
 <専任担当者> 電話番号：0294-42-3077（代）  
 設計部 菅野 拓実 FAX：0294-32-7032  
 E-Mail：t.kanno@sunmec.jp